

2025 年度冬期地区交流会報告

今年は、1月20日（火）の東京での東北・関東・甲信越地区交流会を皮切りに、福岡県久留米市、大阪市、愛知県知立市、北海道苫小牧市の順に全国5箇所で開催されました。

地区交流会の参加者総数は、正会員延べ173名、賛助会員延べ349名、スタッフも含めて、計532名となりました。

地区を代表する理事・総代により開催宣言を行い、交流会が始まりました。

金 信彦協会会長の挨拶では、「昨年は、焼肉業界にとって非常に厳しい一年となった。コロナ禍は終焉したものの、諸物価高による値上げの影響が響いて、売上は確保出来ても客数が減り、利益も厳しいものとなった。これら物価高の最大の要因は長く続く歴史的円安と云っても過言ではない。これにより多くの焼肉店が経営難に陥り倒産、閉店、事業撤退などの話が聞こえる。一方、この環境下でも好業績を残している焼肉店も多くある。いわゆる生き残りの局面に入った感がある。これらを踏まえ我が協会会員は力を合わせ、情報等を密に取りながら勝ち残っていく覚悟である」と最近にない厳しいものとなった。

続いて、懇親会会場の提供を頂いた、開催店主挨拶がありました。

JY情勢報告として、且専務理事より、JF（一般社団法人日本フードサービス協会）の会員売上動向報告、昨年訪日外国人の数や出国日本人の数の比較、牛肉やタン、ハラミの輸入量、さらに国産牛肉の輸出量についての報告がありました。

次に、昨年行われた「焼肉協会の検定試験」の結果についての報告が、担当の安藤理事よりありました。

その後、『焼肉店の新定番！温かい麺』と題し実施された第4回「焼肉料理コンテスト」の結果報告が担当理事よりなされ、その模様についてビデオ放映を行いました。

休憩を挟んで、出席会員より近況報告がありました。やはり共通の悩みとして原材料、水道光熱費、人件費等の高騰という事でした。それでも、年末の繁忙期については各会員、好調で推移しているとの報告も多くあり、これを継続できるよう努力しているとの話もありました。

その後、恒例の賛助会員による商品紹介やサービスの案内等が行われました。人件費の削減や原価低減策につながる様なインフレを意識したものが多かった様です。

皆様、今年度の地区交流会にご参加頂きまして誠にありがとうございました。